

ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

第2号



2009.02



吉野ヶ里対談

第2回「地域医療福祉と当院の連携について」

対談者；平野 誠（院長）、杠 岳文（副院長）、黒木 俊秀（臨床研究部長）

司会；藤瀬 陽子（CRC 薬剤師）

司会：今日は「地域医療福祉と当院の連携について」をテーマにお話をお願いしたいと思います。

杠：地域での活動として出てくるのはきら館（吉野ヶ里町）でのもの忘れ相談や脊振 MRI 健診ですね。脊振健診というのは一般的にいう脳ドックのようなもので、平成9年から始まっています。脊振の方たちに御協力

いただいて毎年約100人ずつやっているんですよ。脳ドックと言っても費用はかかりません。そのかわりこの健診は研究を兼ねているので同意書をいただいて健診の結果を研究に使用させていただいています。のべ1111人、



平野 誠 院長
九州大学医学部卒

実数で735人の方たちが検査を受けているという状況で、これは研究としての価値も大きいのですが、もうひとつ大きな意味というのは、地域の方たちとの交流を深められたということがあると思います。脊振の方が肥前で検査を受けて、医師・看護師等の職員と接する機会ができて、半日ですがそういう時間を毎年100人ほどの方が過ごされることによって病院のイメージが少しは変わられたのではないかなと。やっぱり精神科の病院の問題は敷居の高さですもんね。そこをどうやって垣根を低くするかとところが大事で、地域での活動がそのあたりにつながっていくと思います。そういう意味ではやってよかったなと思いますし、脊振健診だけではなく、こういう情報発信、サービスをしていかなければいけないですね。

平野：10年以上健診を実施してきたなかで、住民の方への還元、たとえば早期発見とかですね、そういう成果

というのはありますか？

杠：認知症の予防的なところでは、この方がどのくらいの認知機能でどういうリスクがある、ということをご本人の同意を得て保健師さんにお知らせすることができますので、早期の保健師さんの介入ができ、それによって病院に来られるタイミングも早くなるということがありました。早い段階での治療開始は重要ですからね。ただ、それで予防ができるかというはまだこれから研究が必要ですね。

司会：こういった取り組みがあることで脊振の方にとっての当院の受け止め方というのは少し他と違うのでしょうか？

杠：違うでしょうね。実際に来てみたらそんなに変わったところでも怖いところでもない、ということを知っていただくためには、まずは来ていただくような機会をこちらが提供する必要がありますから。それは診療だけでなく、いろんな講演会なんかも考えられると思うんですよ。今度できる研修センターで何か地域の方の役に立てるような、一般の方向けの講演会をやったらどうかと思いますね。

司会：地域の方の役に立てる話題というとやはり認知症やうつ病でしょうか？

黒木：最近は発達障がいも関心が高いですね。佐賀県は発達障がいの支援に関しては全国でも有数の高い水準にありますけど、それを医療の面から支えていかなければいけないのはこの病院だと思うし、専門外来もやっていますね。発達障がいに関しては教育現場でも話題ですから、私たちもどうアピールしていくかを



杠（ゆずりは）岳文 副院長 慶応義塾大学医学部卒

考えないといけないですね。実際、発達がい書関連のセミナーを開催すると保健師さんや養護の先生方が非常にたくさんみえています。12月のセミナーには久留米市や福岡市からもいらっしゃってましたね。

司会：直接住民の方々との交流だけでなく、住民の皆さんの身近にいらっしゃる保健師さんや養護の先生との関わりも大事ですね。研修センターはいつ頃できる予定ですか？

杠：来年度末です。まあ、勉強のことだけでなくでもですね、グラウンドもあるので肥前杯とかね！ゲートボール大会とかそういうのも地域の方といっしょにやりたいですね。

平野：院内で喫茶店みたいなことをしたりね。さっき杠先生が言われてましたけど、精神科病院は敷居を低くすることが大事です。その方法で一番有効なのはやはり「ふれあう」ことでしょう。その「ふれあう」機会をどう作っていくか。肥前でも文化祭などをやっていますけど、それらを地域の方も参加できるような形で膨らませていって、もっと病院に来ていただけるようにするとか、健診や健康フェスタのようなサービスを提供する、あるいはこちらから出かけていってお話しするようなこともいいかと思いますので、いろいろと発想してみてもいいかなと思いますね。ふれあうことが一番の相互理解につながると思うのは学生さんを見ればわかります。肥前には医学生や看護学生が実習などで来られますけど、たいがい皆さん精神科ということで最初は緊張しておられます。けれど半日もすればすぐに「なんだ」と良い意味で緊張を解かれます。それはもうはっきりわかりますよ。なかなか精神科への理解というのは、言葉でいくら語っても解決できない面がありますからね。

司会：地域との連携を考えたときに地域住民の皆さんはもちろんですけど、開業医の先生や総合病院、行政との関わりはどういうふうに考えていらっしゃいますか？

杠：開業医の先生との連携も非常に重要でしょうね。肥前が得意とする分野、認知症の問題やうつ、発達障害などでの相談があったときにスムーズにいつでも受け入れられるような体制、関係ができればいいですね。医師会の先生たちが求めていらっしゃる場所でもあると思うんですよ。ですから良い関係をもてて、もうちょっとパイ

プが太くなればなと思います。

司会：当院にも地域連携室ができたことで少しずつパイプが太くなっているのかな、と思いますが。

杠：そうですね。開

業医の先生にも総合病院にもそれから行政にももう少し「肥前ではこういうことができますよ」というのをアピールしなきゃいけないんですよ。そういうところがまだ足りないのだと思います。

平野：“地域”というのを考えたとき、肥前の規模からいったら佐賀県全域、むしろそれよりもっと広いところで考えられると思います。これからどんどん進んでいく高齢化の問題、アルコールやうつの問題等を考えたときに他の病院との連携、プライマリーケアが非常に大事なんですけど、連携するには当院の得意なところ、他の病院と競合しないメニューを開発しなくてはならないんです。さっき発達障害の話ができましたけれど、当院には小児精神の専門の医師等がいるわけですからその得意なところを伸ばして行ってね。他にも認知症やアルコール依存症などもニーズがありますから将来を見据えて得意分野を強化していくことが大事だと思います。

黒木：ニーズと言えば、今うつ病医療というのが見直されている時期ですね。昔のように休養と薬物療法で回復したら社会復帰できるという医学モデルだけでは通用しなくなっている、それに当てはまらないうつ病が増えているんです。もう医療の中だけでカバーするんじゃなくて、リハビリ復職とかジョブコーチなどの社会資源を生かしたり、うつ病からリカバリーした人たちの自助グループなどもできてますからね。今後、肥前もどのようにその展開の中に加わっていくかということ、考えていかなければいけないと思います。・・・でもまあ、職員にとって誇りのもてる病院が患者さんにとってもいい病院だと思いますよ。

杠：楽しく夢をもって働ける病院であるということ、その夢をもてるような土壌があることが必要ですね。

司会：患者さんも職員も明るい未来を思い描いていけるような病院でありたいですね。



黒木 俊秀 臨床研究部長 九州大学医学部卒



藤瀬 陽子 CRC 薬剤師 長崎大学薬学部卒

アルコール依存症

解説者 武藤岳夫

武藤 岳夫 佐賀医科大学卒

平成〇〇年より当院に勤務しています。

現在アルコール・薬物グループ長、副医長です。

Q 1. アルコール依存症とは どのような病気ですか？

アルコール依存症とは、飲酒について「いつ飲むか」「どこで飲むか」「どれくらい飲むか」といったコントロールが次第に失われていく病気です。

飲酒をコントロールできないのは、依存性の高い薬物であるアルコールによって、飲酒をやめると精神的・身体的に耐え難い何らかの苦痛が生じるからです。したがって、アルコール依存症は、意志の弱さや道徳心の欠如、性格のだらしなさなどは、一切関係がありません。

Q 2. どんな症状がありますか？

アルコール依存症で特徴的なのは、飲酒のコントロールを失うということに加えて、離脱症状と呼ばれる不快な症状が出現することです。これは体内のアルコールが抜けてくると現れますが、飲酒をすると治まってしまうため、いわゆる迎え酒が習慣化することになってしまいます。

離脱症状は、最初のうちは不安、イライラ感、動悸、吐き気、大量の発汗や睡眠障害などですが、重症化すると手足のふるえやけいれん発作、さらには全身にふるえが起きて日時や場所を間違えたり、幻覚で精神が異常に興奮する「振戦せん妄」と呼ばれる特殊な意識障害を起こすこともあります。

Q 3. どのように治療するのでしょうか？

アルコール依存症は適切な治療を受ければ回復しますが、残念ながら飲酒のコントロールを取り戻すことはできません。したがって、アルコール依存症の患者さんが再び「酒を普通に楽しめるようになる」ことは二度とないとされています。

そのためお酒を減らす「節酒」では意味がなく、アルコールを完全に断つ「断酒」を続けることが唯一の治療法です。

とは言え、ただ強い意志や根性だけで断酒しようとしても、様々な誘惑や疲労、ストレスなどで容易に再飲酒してしまいますし、また、家族や周りの人がどんなにやめさせようと頑張っても、本人にその気がなければ断酒を続ける

ことはできません。

断酒を継続するには、まずアルコール依存症についての知識を持ち、自らが病気であるとの自覚をしっかりと持つことが重要で、その上で専門の医師の指導を受けたり、抗酒剤と呼ばれる、アルコールを体内で代謝しにくくする薬を服用したり、断酒会やAAと呼ばれる自助グループに参加をしたりすることが有効です。当院ではこれらの治療をプログラム化して行っています。

また、ご家族もこの病気についての正しい知識を持ち、本人への対応を学んでいくことが必要です。

Q 4. アルコール・リハビリプログラム (ARP) について説明してください。

当院では、専門の開放病棟で任意入院での治療を原則としています。プログラムは10週間です。その間に依存症についての学習や、同じ病気を持つ患者さん同士でのミーティング、アルコールによって歪んでしまった物の見方、考え方について焦点を当て、それを修正していくことで断酒を目指す「認知行動療法」と呼ばれる治療などを行います。農作業や登山、SSTなどの作業療法も行い、心身双方の回復を目指します。もちろん院内外の自助グループへの参加も積極的に推奨しています。

ご家族向けには月に2回、家族教室を開催しています。

Q 5. 受診の目安について教えてください。

アルコール依存症も他の多くの病気と同じように早期発見・早期治療が大切で、早く治療を開始するほどご本人やご家族にとって失うものが少なく、経過もよいようです。

先にご紹介したような症状がある方はもちろん、もしも日々の暮らしの中で酒がないと物足りないと感じるようであれば、一度アルコール専門外来などで、専門の医師の診察を受けることをおすすめします。

またご本人に自覚がなくても、周囲から見て明らかにお酒の量が増えているようであれば、周りの人が受診を勧めたり、あるいはまずご家族だけでも専門機関に相談されると、有効な対策が取れる場合もあります。まずは当院外来、もしくは地域医療連携室にご相談下さい。

「診断を受けぬまま経過し、 問題が複雑化したアスペルガー症候群の人たちへの支援」

講師；トニー・アトウッド博士 日時；平成20年12月1日 場所；当院精神医療研修センター

NPO 法人それいゆ主催のセミナーのためオーストラリアから来日されたトニー・アトウッド先生をお招きして、上記テーマにてご講演いただきました。トニー・アトウッド先生は、アスペルガー障がい者支援の世界的権威で、オーストラリアでアスペルガー症候群を対象としたクリニックを開業され、日々実際の臨床にも精力的に取り組まれています。

最近ではメディアでもアスペルガー症候群・高機能自閉症の子供たちの問題が取り上げられるようになり、以前に比べると周囲の理解は得られやすくなってきました。それでもそういった人たちへの対応がまだまだ追いつかないのが現状です。また、最近では、自閉症スペクトラム概念が広く受け入れられるようになり、当初想像されていた以上に自閉症スペクトラムに関連した問題は幅広く、かつ、深刻であることが認識されつつあり、自閉症スペクトラムの人たちに対するバリアフリーな環境

を整備していくことが社会的に急務となりつつあります。

今回は、診断を受けぬまま生育し、様々な不適応に伴う二次的な情緒面・行動面での問題を抱えている、主に青年期から成人のアスペルガー症候群の人たちの支援の具体的な方法について、特に支援へのつなげ方の工夫や感情のコントロールに関する具体的な支援に焦点づけてお話していただきました。先生の豊富な経験と高い見識に基づいて具体的に、わかりやすくお話しいただきました。当日は病院の内外からたくさんの方にご参加いただきました。



アルコール専門サテライト外来 開設記念講演会

「生活習慣予防のための酒量低減プログラム～HAPPY～」

講師；杠岳文副院長 日時；平成21年1月22日 場所；NHO 福岡病院 研修情報センター



西間福岡病院院長



杠当院副院長



岩永福岡病院副院長

当院とNHO福岡病院は新たな試みを計画しています。2月27日より、福岡病院へ当院からアルコール依存症治療のためのサテライト外来を開設いたします。それに先立ち、1月22日に記念講演が開催されました。当院の杠副院長が講師を務め、西間三警福岡病院院長から両病院の協力の意義をお話いただき、岩永〇〇福岡病院副院長からも期待をこめたお言葉をいただきました。

杠先生からは、アルコール摂取量を減らすとすぐに健康を獲得できるか、またそれはどのようにしたら可能か、ということをいろいろな資料を用いながら、非常にわかりやすく解説していただきました。そして、現在杠先生が取り組まれている福岡市役所での実践の成果も披露していただきました。





野球場

敷地の中心から少しはずれたところに、野球場があります。地域の野球チームにも使っていただいています。毎年秋には運動会も開催されます。外野の向こうは雑木林になっていて、何かあの映画「フィールド・オブ・ドリームス」を彷彿とさせます。

作業療法棟は多目的スペースです。作業療法はもちろん、「肥前音楽祭」や「肥前文化祭」、保育園の卒園式まで開催されます。広さがわかるように作業療法士に立ってもらいましたが、二人で「O.T.」とポーズをとってくれました。



作業療法棟



デイケア棟

これは、デイケア棟の、吹き抜けになっているメインホールです。南西側の壁は、天井までガラス張りになっていて、いつも光にいっぱい包み込まれます。脇にはカウンター席も設置されています。



オール肥前大図解

私たちの肥前精神医療センターへようこそ。これが肥前の全貌です。「遊園地」・・「ほど楽しいところではありませんし、まあ、悪戦苦闘の連続ですけど、患者さんとともに生き生きと問題に立ち向かっていることは間違いなし」と思います。



中央廊下

まさに肥前の大動脈にあたるのが、この中央廊下で、東西にいろいろな建物が建ち並んでいます。中央廊下は全長 350m もあるそうです。向こうがかすんで見えます。



レストラン ビアン

食堂は2階にあります。吉野ヶ里の平野を一望できて、天気の良い日は特に気持ち良い景色を眺めながら、おいしい食事を楽しむことができます。



営繕家政棟

実は、この建物はむかしの病棟なのです。おそらく肥前の中で最も古い建物だと思います。長い、本当に長い間肥前を支え続けてくれました。そして今でも現役としてその役割を果たしています。本当にありがとうございます。木造の建物は、時とともに朽ち果てていきますが、それが歴史を実感させてくれて、また何ともいえない味わいを醸し出してくれて、じ〜んとときゃいます。



近所の名店

東洋軒



本当にすぐ近くなので、お世話になっている職員も多いのではないのでしょうか・・・(^_^)では、早速！

取材班：お邪魔します。早速ですが、お店の歴史を教えてください！

店長：はい、東洋軒は今年で創業 20 年になります。以前は肥前の前にあったんですよ。家族ですっと営業しています。出前は単品に限って行っていますが、肥前の方もよく利用してくれますね。

取材班：そうなんですね。では店長さんの“こだわり”を教えてくださいませんか？

店長：そうですねえ・・・家族連れがみんなで食事できるようにいろんなメニューをそろえているところですかね。そしてセットメニューを増やして、「あそこに行けば何でもあるよ」という形にしているところですよ。

取材班：なるほどお。では、お勧めメニューを教えてください。

店長：どれもお勧めですけど、あえて言うならちゃんぽんとラーメンですかね。



創業 20 年という伝統の味を早速いただきました(^O^) 今回はちゃんぽん、そしてラーメン・カツ丼のセットです。ちゃんぽんですが、海の幸・山の幸など盛りだくさんで味わい深いです♪ ラーメンは、こってりというより比較的あっさりしていて、女性でも食べやすいかも☆ カツ丼とラーメンのセットになるとボリューム満点で、男性でも満足の重量感です。

皆さんもぜひ東洋軒へ足を運んでみてください。

次回も近所の名店をレポートしたいと思います。お楽しみに！！

(作業療法士 平位、ソーシャルワーカー 村上)



平成 20 年度

肥前文化祭開催しました！！

平成 20 年 12 月 4 日に肥前文化祭が開催されました。肥前文化祭は古くは作業祭と呼ばれ、収穫祭の色合いを持つものです。今年も入院や外来の方々が趣向を凝らした作品を多数出品されました。また、ミニコンサートや出店もあり、地域の方々、なわとびの会の方々も参加して下さい大変賑わいました。

(作業療法士長 福井基孔(ふくい もとよし))



肥前は吉野ヶ里のまほろば

「太陽の恵み」

太陽は、東から昇って西に沈み、翌日には再び東から昇ってくる。

この現象は永遠であり、大自然のエネルギーは偉大である。

光を当て、雨を降らし、花を咲かせ、生物を育てる。

太陽の推測年齢は約 46 億年、地球からの距離は約 1 億 5 千万キロメートル、6 千度の光を放ち、取り囲むコロナは 100 万度の高温、内部は個体でも気体でもない第 4 の状態（プラズマや超臨界流体）ということで、まだ謎も多い。

これらの大自然の恵みで、患者さんの病気が早く良くなることを願いたい。

(K・Y 空気読人)

クラブ活動 報告

オッス！野球部です。

ぬぉ～し！三段ドロップだあぁー！

なんの～！ジャコビニ流星打法じゃあぁあ～！！

この広報誌発刊が進むにつれて、季節は秋から冬へ……。野球部にとっては活動休眠の季節だが、昨年 1 年間の歩み・戦績を PR がてらご紹介しようと思う。

スタートは 2 月で、オープン戦と称し沖縄キャンプ合宿を敢行。観光と呼ぶ人も多数いるが（笑）、南の地にて 2 戦全勝で好発進！ 4 月には新たな若い力をドラフト（逆指名含む）にて獲得し勢いをつけ、やる試合全てに勝利し、美酒に酔いしれたぜ☆（実際はラーメンであがりなんすけど：笑）町の大会でも準優勝！ でも、決勝戦サヨナラ負けは、記憶に新しいところだね～。

盛夏から秋口にかけては、先の決勝戦のリベンジをもくろんだが完敗し、それから何故か負けが続き（キャプテン不在が響いたのか・・・「ないね」）、年間戦績は 9 勝 4 敗の勝率 6 割 9 分。中途半端にみえるだろうが、じつはプロ野球覇者埼玉西部ライオンズの勝率は 5 割 3 分で、こちらの方が遥かに超えてるぜ！ラッキィ！！

野球部新年会では個人賞の表彰も行い、モチベーション↑で闘争心に火をつけ、今号が発刊される 2 月の沖縄オープン戦を皮切りに、2009 年もアツく、アツく、野球していこ～と思ってるぜ、応援よろしく！！（看護師 安永）



ひげんだより

各部署をご紹介します。

東4の2病棟

昭和58年アルコール依存症治療病棟として稼働。平成7年からは薬物依存症の治療を開始。平成20年9月より精神科急性期病棟の認可を受け、アルコール・薬物依存症患者の離脱症状や身体合併症の専門的な治療・看護を集中的に行っています。また、教育プログラムを通して、依存症という病気について正しい知識を持ってもらい、患者さんの自律的な回復を支援しています。患者さんが一日でも早く回復し社会復帰ができるように、医師・看護師・パラメディカルスタッフチームが一丸となり支援していきます。

アルコール家族会・薬物家族教室・ギャンブル依存症家族会を開催し、家族の支援も行っています。(看護師長 翁長)



デイケア・ナイトケア

当院のデイケア・ナイトケアは、外来通院されている患者さんが毎日20～40名利用されています。「退院はしたけど、すぐに仕事を始める自信がない」「病気のことを知りたい」「友だちがほしい」など、利用目的は様々です。当院デイケアは個別担当制で、各利用者の目標に合った利用の仕方を相談しながら、その人に合った社会生活が送れるように支援しています。個別相談の他にも、目標に応じてグループや集団でのプログラムにも入れます。季節ごとの行事も行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

患者さんが利用しやすい、優しい、明るい雰囲気の日ケアを目指していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(作業療法士 杉村)



地域医療連携室

こんにちは、地域医療連携室です！ 長いので、「連携室」で大丈夫です(^_^) 連携室は、精神科医、看護師、ソーシャルワーカー、事務職といった様々な職種からなる部署で、2008年4月に立ち上がりました。

仕事の内容としては、①受診相談 ②広報活動 の二つが主なものです。

①受診相談 とは、今まで当院にかかったことのない方、または久しぶりにかけられる方の相談窓口になることです。「連携室」にお電話いただき、今お困りの内容をスタッフにご相談いただければ、ご予約までお取りできます。お電話は、ご本人、ご家族、医療機関・行政機関・施設といった関係機関の方々など、ご本人に関係のある方ならどなたからでも結構です。やさしい(?)スタッフがお話をうかがいますよ～。

②広報活動 とは、当院の情報誌(この冊子のことです!)の編集部になったり、医療機関等のみなさまに当院の診療に関する情報をお伝えしたりする活動です。「みなさまに肥前を知っていただく」をモットーに活動していきたいと思っています。

場所は外来受付前のピンクの部屋ですので、お越しの際はのぞいてみてくださいね(^-^) みなさまに相談していただきやすい連携室を目指しますので、今後ともよろしくお願いいたします☆ (連携室 川原、江頭)



マスコットの名前が決定しました！！

前号で募集していたマスコットの名前が決定しました！
たくさんのご応募ありがとうございました(^o^)/
どれも個性的でよい名前だったのですが、
悩みぬいた結果、

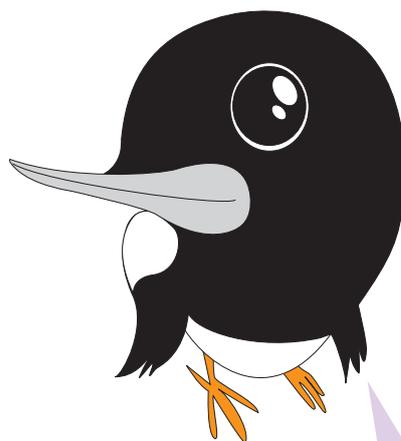
「くーたろう」

となりました♪

名付け親は、佐賀県鹿島市のY・Hさんです。
主食がなやみごとなので、「なやみ食うたろかー」
という語呂でイメージが浮かんだそうです。

みなさま、これからもくーたろう（連携室も・・・）をよろしくお願ひします！
くーたろうの今後の様子については、随時お知らせしていきたいと思っています。
もしかしたら、意外なところにいるかも(?)。
じつは、表紙にもすでに出没しています。探してみてくださいね(^-^)

(連携室 川原、村上、江頭)



くーたろうだよ。
よろしくね。

活動・イベント案内

吉野ヶ里町健康フェスタに参加します。

毎年吉野ヶ里町では、「吉野ヶ里町健康フェスタ」を開催し、町民の方々へ楽しいイベントを提供しながら、健康への関心を喚起しています。今年は、3月21日(土)に、三田川ふれあい館で開催されますが、当院からも専用のブースを設けさせていただきます。みなさんに楽しんでいただきながら、当院ならではの精神保健福祉に関する情報やヒントをご提供しようと思います。私たちも当日を楽しみにしながら現在準備をすすめています。みなさんもどうぞふるってご参加ください。

福岡病院にアルコール専門サテライト外来を開設します。

平成21年2月27日より、国立病院機構福岡病院において、アルコール依存症の方に対する専門外来を当院のスタッフで開設します。福岡病院は、福岡市南区屋形原にある伝統ある総合病院です。東脊振トンネル開通で当院とはグンと距離が近くなりました。毎週金曜日14:00～16:00に診療を行います。完全予約制で、予約受付は当院地域医療連携室が担当いたします。ご家族のご相談も受け付けますので、もし福岡市のお知り合いでお困りの方がいらしたら、ご案内ください。

編集後記

めでたく第2号を発行することができました。みなさんがどのような感想を持たれるか、楽しみである一方で、一方では何か不安も感じてしまいます。この小冊子を通じて、当院が目指している、「高度な専門性と陽気さの両立」がお伝えできればいいなあ、と思っております。表紙のイラストは、当院臨床心理士天野昌太郎さんの作品で、見開きページの当院見取り図のイラストは、当院ソーシャル・ワーカー佐藤〇〇さんの作品です。これからもみなさんに楽しんでいただけるイラストをたくさん描いていただきたいと思います。

(編集長 佐伯祐一)

平成21年2月5日発行

編集・発行；肥前広報誌作成委員会（佐伯、村上、川原、江頭、平位、鶴丸、佐藤、天野、行時、武田、藤瀬、安永）

発行所；独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160 Tel 0952-52-3231 Fax 0952-53-2864 WEB <http://www.hosp.go.jp/~hizen/>

ひげんだより



kuutaro

目次

- pp 2-3 吉野ヶ里対談 第2回「地域医療福祉と当院の連携について」
- pp 4 精神疾患がよくわかるシリーズ 第2回「アルコール依存症」
- pp 5 第84回肥前セミナー
「診断を受けぬまま経過し問題が複雑化したアスペルガー症候群の人たちへ支援」
- pp 5 アルコール専門サテライト外来 開設記念講演
- pp 6-7 オール肥前大図解
- pp 8 近所の名店「東洋軒」
- pp 8 平成20年度肥前文化祭開催しました！！
- pp 9 肥前は吉野ヶ里のまほろば「太陽の恵み」
- pp 9 クラブ活動報告 野球部
- pp 10 各部署の紹介します。 東4の2病棟 デイケア・ナイトケア 地域医療連携室
- pp 11 マスコットの名前が決定しました！！
- pp 11 活動・イベント案内 吉野ヶ里健康フェスタ NHO 福岡病院サテライト外来